

◆◇JPA事務局ニュース(No.5)-2010年7月16日-----◇◆

各組織で増刷して、役員に配布してください。

<発行>日本難病・疾病団体協議会（JPA）事務局
東京都豊島区巣鴨 1-20-9 巣鴨ファーストビル 3F
TEL 03-5940-0182 FAX03-5395-2833
address : jpa@ia2.itkeeper.ne.jp

* インターネットメールは、BCCにてJPA加盟・準加盟組織、役員等に活動に役立つニュースを不定期に配信します。メールアドレスのない加盟組織については、FAX、メール便にて配送します。送信もれ、または各組織で配信希望の役員がいる場合は、事務局までご連絡ください。（追加、訂正、削除などは事務局まで連絡をお願いします。）

◎医療保険部会で高額療養費制度の見直しの検討開始！

JPAの要望書も参考資料として提出されました

7月14日に開かれた厚生労働省第38回社会保障審議会医療保険部会で、高額療養費制度についてが議題として検討されました。先の国会で、菅総理大臣の所信表明に対する代表質問への答弁で、「高額療養費制度については患者負担に一定の歯止めをかけているが、患者負担の現状や医療保険財政への影響等を勘案しつつ、その在り方を検討」（6月14日）すると答えたことをうけてのもの（保険課長）です。

資料は、ワムネットで公開されています。

<http://www.wam.go.jp/wamappl/bb11GS20.nsf/vAdmPBigcategory10/CAAF2A65DD2F596D492577610023F353?OpenDocument>

参考資料の冒頭はJPAの要望書。続いて第1回総合福祉部会への野原委員の意見も入っています。そのほか、保団連の要望書や、がん患者の要望・資料、東大医科学研究所の児玉有子先生らのアンケート調査結果などの資料もつけられています。

保険局の資料に現行制度のしくみだけでなく、支給実績や患者一部負担の推移、高額療養費制度の主な改正経緯、限度額の考え方などが整理されており、今後の制度を考えるうえでとても参考になる貴重な資料が含まれています。

たとえば、平成12年から導入された「1%条項」については、「医療を受けた者と受けていない者の負担の公平を図る等の観点から」導入した、と。この論理は、破綻した自立支援法の応益負担の論理そのものです。

議論のなかで吉田保険課長は「早くて来年度にも見直すことを念頭にしている」と言及。樋口恵子委員からは、「特定疾病（高額長期疾病）が3疾病しかないと聞いてびっくりした。難病やがんの人たちのことを考えると対象を広げるべきという意見に私も賛成。そのためにはいくらかかるのかという試算も出してほしい」との発言。骨髄バンク理事長の大谷貴子委員は「(3疾患は)昭和59年以来増えていない。この間、医療がすすんで病気も新しくわかり、治療できるようになったことで、生き長らえる患者も多くなったが、一方で医療費の負担で苦しんでいる患者も多い。白血病は誰もがかかりうる病気。たくさんの患者が苦しんでいる状況を何とかしてほしい」と訴えました。

連合の小島総合局長（逢見委員の代理）は「高額療養費制度はいくつかの特徴がある」として①医療費の経済的負担のリスク軽減、②所得再配分的機能（所得による負担ランク付け）、③特定の疾病に罹ったことによる特別の給付の3つをあげ、保険制度の論理からすると②まで医療保険制度でやるべきかという論点もある。それらが混在していて、この制度の本来の目的にてらしてどうあるべきかを考えていない」として、事務局に、論点整理を要望しました。また小島氏は国保組合や健保組合で高額療養費に付加給付をつけているところの資料や、難病対策などで負担軽減を行っている制度の資料提供も要望しました。

経団連の斎藤委員は「非常に大事な制度だが、どこまでを医療保険で見るのか、保険の枠外は民間医療保険で補填することや、自助自立の考え方を阻害することのないような検討を」などと述べました。

大谷委員は傍聴に来ている多くのマスコミ関係者らにもむけて「高額療養費制度のことを知らない患者がたくさんいる。制度の見直しをすることとあわせて、この制度を国民に知らせていく方策を一緒に考えてほしい」と訴えました。

どの委員からも、発言の最後には財源の問題が指摘され、保険の壁の厚さがうかがえましたが、高額療養費制度についての正面からの議論は近年になかったことであり、また厚労省の資料として患者団体の要望書（しかもJPAがトップ！）が医療保険部会に提出されることも近年にないことです。

次回以降、具体的な見直しの議論がはじまります。私たちも、公的医療保険と公費負担医療をどうしていきたいのかについての見解を早急に具体化する必要があると思います。

（事務局長 水谷幸司）
